

# 東区歴史街道を往く



Vol.8

東区歴史ガイドボランティアさんぽ会のおすすめスポット  
 ふくおか市政だより東区版に掲載

市政だより 東区 

掲載月	タイトル	ページ	掲載月	タイトル	ページ
R5年6月	塩浜「かねて」周辺	… 3	R6年6月	裏糟屋最大のため池 大蔵池	… 14
R5年7月	旧唐津街道箱崎宿旧柴田家住宅	… 4	R6年7月	久保記念館	… 15
R5年8月	香椎潟の埋め立て地を歩く	… 5	R6年8月	不老水と武内宿禰	… 16
R5年9月	高射砲陣地道	… 6	R6年9月	名島学校	… 17
R5年10月	悲劇の若王子神社 志賀島	… 7	R6年10月	開墾社・向浜塾（西戸崎）	… 18
R5年11月	玄界灘が望める「三苦浜中央公園」	… 8	R6年11月	須賀神社の祇園山笠	… 19
R5年12月	妙徳禅寺	… 9	R6年12月	管崎宮・楼門	… 20
R6年2月	志賀島と安曇族	… 10	R7年2月	香椎宮境内の文学碑	… 21
R6年3月	古代からの交通の要衝 名子	… 11	R7年3月	多々良川の歴史散歩道	… 22
R6年4月	松崎にある藤野小四郎翁記念碑	… 12	R7年4月	志賀海神社にもあった「力石」	… 23
R6年5月	志賀海神社と仙厓和尚	… 13			

※本文の内容は市政だより掲載時点のものです。

## 塩浜「かねんて」周辺

山田 次男

塩浜の五丁川が博多湾に流入する入江は、かつて「かねんて」と呼ばれていました。「かねんて」とは、城に攻め込みにくくするためカギ状に曲げた道の

こと、入江の形がカギ状に曲がっていることから、その名が付けられました。



新開築堤記念碑の周辺では散歩ができます



塩浜「かねんて」広域図



「かねんて」周辺

この一帯は安政年代（1850年代）に、大きな堤防が築かれ、造成された塩田が広がっていました。和臼地区と博多の往来は、陸の交通が不便だったため、小舟を利用していました。

「かねんて」の波止場は、塩浜で製塩された上質な「和臼塩」や、裏糟うらかす屋や（旧糟屋郡）の米を積み出す交通の要所となり、倉庫や酒場が立ち並び賑わっていたそうです。

塩田跡は後に畑作地となり、大きな恩恵を受けました。先人の功労を称える「新開築堤記念碑」や、堤防の安全を祈願した「波切不動尊」などを巡りながら、散策してはいかがでしょう。

博多のまちを太閤町

割りで復興させた豊臣

秀吉は、当時、箱崎松

原で開かれた茶会で、

連歌（下の句）を詠み

ました。

博多町家幾千代まで

もつのるらん

これは、神代から連

綿と続く博多津が千年

先も栄えるのを祈って

ますよという意味で、博

多町家と国際貿易港・



博多津への秀吉の思いが  
伝わる歌です。

江戸時代にかけて、旧

唐津街道の宿場町の箱崎

宿（現在の箱崎・馬出地

区）界限は、筥崎宮の門

前町と社家町、街道筋の

商人町、海側の漁師町、

馬出の曲げ物職人町と、

繁栄しました。

時が流れ、福岡大空襲

を免れた箱崎宿界限に

は、江戸、明治、大正、

昭和の各時代の面影や特

徴を感じさせる魅力的な

博多町家約70軒が、点在

しています。

今年3月、箱崎宿の町

家の一つ、旧柴田家住宅

Ⅱ写真Ⅱ（馬出五丁目12

Ⅰ9）が町家の景観を保

存し、国土の歴史的景観  
に寄与するとして、国登

録有形文化財に認定され

ました。

旧柴田家住宅は、筥崎

宮の神事に奉納する杉板

曲げ物製作を営む町家と

して大正4年に建築され

ました。現在は子孫が飲

食店（筥崎とろろ）を営み、

町家を維持しています。

点在する博多町家を散

策しながら、箱崎宿の面

影を感じてみませんか。



箱崎宿周辺地図

香椎潟の埋め立て地を歩く 今村 一朗

香椎を走るＪＲ鹿児島本線は、明治23（1890）年に九州鉄道として開通しました。その頃、香椎から千早にかけて、唐津街道の近くまで香椎潟（博多湾）が迫り、今の千早駅付近では、鉄道は海の中を走っていました。香椎潟の埋め立て後に

「香椎参道」交差点から香椎浜方面へ進み、香椎税務署の先にある「御幸公園前」の先にある「御幸公園前」交差点の歩道には、昭和25（1950）年頃、ここが海岸であったことを示す防波堤が残っています（＝左写真の白丸部分）。さらに直進し「片男佐橋」交差点まで進むと、現在の香椎潟を見ることが

できます。そこから見える海の中の鳥居が神功皇后ゆかりの「御島神社」です。干潮時は干潟が現れて陸地とつながります。かつての香椎潟を思いながら、香住丘地区と対岸のアイランドシティを結ぶ「あいたか橋」を渡って海岸沿いを周回する遊歩道を、爽やかな海風に吹かれて歩いてみませんか。



御幸公園前交差点に残る防波堤



香椎潟の「御島神社」（手前）と「あいたか橋」（奥）

## 高射砲陣地道

安部 光征

かつての名島は、福岡の産業、物流において重要な地区でした。電力需要の高まりから、大正9（1920）年に名島火力発電所が運転を開始しました。同発電所は東洋一と評されるほどの大規模な石炭火力発電所でした。

かつての名島は、3代目の橋が竣工しました。全長200メートル以上、全幅20メートル以上の当時としては破格の規模の橋は、国の登録有形文化財に登録され、近代福岡の発展を象徴する建造物であり、現在でも交通の大動脈です。

太平洋戦争中、高射砲部隊が、これら重要なインフラ施設や福岡のまちを防衛するために、名島に配備されました。名島橋のたもとから遊歩道を多々良川上流に向かって左手に見える高台に、高射砲部隊の陣地が置かれていました。付近の道路は現在「高射砲陣地道」と呼ばれ、パネルが設置されています。

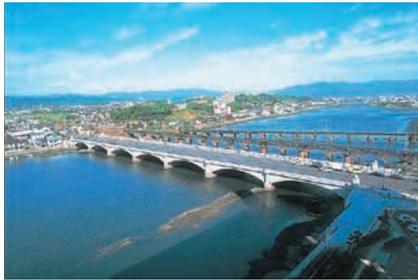
また、名島橋は、昭和8（1933）年に

部隊が、これら重要なインフラ施設や福岡のまち

ぜひ周辺を散歩しながら、往時の名島に思いをはせてみませんか。



道路横にある「高射砲陣地道」のパネル



名島橋



## 悲劇の若王子神社 志賀島

石井 志津子

志賀島の北部の勝馬バス停から山道を約千メートル進んだ島の中央部の「乙子の森」に、志賀海神社の末社「乙子神社」**Ⅱ左写真Ⅱ**が

ひっそりと鎮座しています。

社の中には、ご祭神とみられる石が祀られ、「稚郎子皇子命」の文



字が刻まれています。これは、「菟道稚郎子」のことといわれ、日本書紀には「応神天皇の皇子。仁徳天皇の弟。百濟から渡来した王仁らから書物を学び、その聡明さゆえに父から寵愛されたが、兄に帝位を譲るために自殺した」と記述されています。

この社は「稚郎子」の乳母にちなんで建てられたといわれています。妊産婦が乳がよく出るように、また生まれた子どもが健やかに成長するようにひしゃくを供えて祈願したと言い伝えられています。定かな史料はありません。

「勝馬」という地名は、神功皇后が三韓出兵から凱旋した時、この地で馬に乗り皆で祝勝の歓声を上げたことが、由来とされています。

志賀島は神功皇后の皇子です。勝馬の地に、神功皇后の孫にあたる人物に縁のある神社があると知り、改めて古代の神話の世界に魅了されます。

志賀島の地図



三苦浜中央公園（三苦七丁目）は東区の最北部に位置し、面積は、3.5畝で平成21年に開園しました。

公園には遊歩道が整備され、球技のできる「自由広場」や遊具をそろえた「こども広場」があります。西側の「散策の森」には、桜並木が続ぎ、春になると多くの人が訪れます。



広々として緑が生い茂っています



この場所から見る玄界灘に沈む夕日はとても魅力的です

公園周辺の住宅地は、三苦遺跡群に含まれています。そのため宅地造成に伴い調査・発掘が行われ、古代の土器や住宅跡などが見つかりました。公園内の三苦京塚古墳の石室からはガラス玉や鉄製の武器なども見つかっています。散策の森を上ると、古墳の一部である石積みが保存されています。

さらに海側に進むと展望休憩所Ⅱ左写真Ⅱがあり、目の前には玄界灘が広がっています。すぐ前には相島、天気の良い日には水平線上に小呂島（約40km先）、さらに気象条件がそろえば約65km先の壹岐島や世界遺産の沖ノ島も遠くに眺めることができます。景色を楽しみながら公園を散策してみませんか。

妙徳禪寺  
みょうとくぜんじ

奥永 茂晴

妙徳禪寺は、建久3  
(1192)年、管崎宮  
の正面参道近くにある  
恵光院えこういんの隣に建てられ  
ました。

日本で最初の本格的  
禅寺として知られる聖  
福寺ふくじの開祖・栄西えいせいが宋  
から帰国後、最初に住  
んだ寺であると「筑前  
国ちくぜん風土記」に記され  
ています。栄西は臨済  
宗の開祖でもあり、喫  
茶の習慣を日本に再び



伝えたことでも知られて  
います。

寺の山門に入ると、正  
面に本堂、前庭には立派  
なソテツがあり、向かっ  
て左側には、慈悲観音菩  
薩像さつざうが優雅な姿で立っ  
ています。

日切地藏堂ひぎりじざうどうには、線香  
の香りが絶えないほど多  
くの人が参拝に訪れます。  
その通りの両側に並ぶ多  
くの地藏の中に、交通安  
全の願いが込められた3



妙徳禪寺 本堂

体の地藏があります。

平成18(2006)年、  
海の中道大橋で3人の幼  
い兄弟が犠牲になった飲  
酒運転事故がありました。  
3体の地藏は、400人  
以上の有志によって建て  
られ、二度と事故を起こ  
さないという願いを込め  
て「空」「風」「光」と名  
付けられました。

近くにある恵光院や管  
崎宮なども散策しながら、  
訪れてみてはいかがでしょうか。  
しょうか。



慈悲観音菩薩像

志賀島と安曇族あずみぞく

古賀 偉郎

志賀島は、古くから漁業や海運業に従事する海人の根拠地として、また国内外を行き交う海上航行の要所として知られていました。

志賀島南側の小高い山にある志賀海神社は、海を守る神社として知られ、2世紀ごろに創建されたといわれています。



志賀海神社

前5世紀ごろ呉越戦争ごえつせんそうで越に敗れた呉の人々が、北部九州に渡ってきました。彼らは「安曇族」と呼ばれ、志賀島を拠点に中国大陸や日本列島で交易を始めました。

志賀海神社の宮司家は歴代、阿(安)曇姓だといわれています。日本各地には、志賀・安曇にゆかりのある地名が30カ所以上あります。



東区演舞台に参加した安曇野市どんたく隊

長野県安曇野市もその一つで、約30年前から東区と交流事業を続けています。

毎年5月には、安曇野市どんたく隊がどんたく東区演舞台に参加しています。夏には安曇野市と東区の子どもたちが、一年ごとに相手方を訪問し、お互いの歴史・文化・自然などに触れながら交流を深めています。



昨年8月に安曇野市で開催した志賀島特産品の販売会

名子の集落は、多々良川の支流「猪野川」の西岸に位置しています。名子周辺では古代の遺跡が多く見つかっています。

令和2年の発掘調査では、古墳時代の集落跡が見つかったほか、奈良時代の直線的な溝が発見されました。これは、官道の側溝と見られています。



令和2年の発掘調査  
(現在は事業所敷地のため見学不可)

官道とは奈良時代に国が整備した幹線道路です。北の宗像むなかたから南の大宰府に至る南北の官道が名子を通っていたと考えられています。

江戸時代には、名子は猪野川上流にある伊野天照皇大神宮への参詣ルートでした。

昭和の半ばには、久山町にあった炭鉱と土井駅を結ぶ石炭運搬用のロープウェイの支柱跡



ロープウェイの支柱跡



プウェイが名子を通っていました。今でもロープウェイの支柱跡が残っています。

そして現在、山陽新幹線と九州自動車道が、官道ルートの近くを走っています。名子はいつの時代も交通の要衝として、人や物が行き交ってきたのです。

松崎にある藤野小四郎翁記念碑

平山 勲

明治時代から昭和初期にかけて、農業が盛んだった頃、牛馬を用いて田畑を耕す「牛馬耕」やその技術向上に関心が寄せられていました。

松崎の農家・藤野小四郎翁は、収穫を終えた田んぼを鋤<sup>すき</sup>で深く耕すことで、次の収穫がよくなることに気付



競犁会（粕屋町立歴史資料館提供）

き、牛馬に犁<sup>すき</sup>を取り付けて引かせ、それを競い合う「競犁会<sup>けいりかい</sup>」を催すことを提唱しました。明治13（1880）年には、競犁会が全国に先駆けて多々良村で始まり、各町村単位で競うようになりました。次第に県や全国にも広まりました。

当時、この競犁会に出場し、優勝することは、村の若者にとって大変な名誉でした。

藤野小四郎翁は、犁の改良と普及に取り組み、



記念碑

徳島県に招かれ、米作指導者として活躍するなど、農業振興に尽力しました。松崎に帰郷した後、除虫、除草機を発明し特許も取得しました。

藤野小四郎翁記念碑は昭和8（1933）年に建立されました。記念碑の近くには、陣の越、わくろ石などの史跡もありますので、訪ねてみてはいかがでしょうか。



志賀海神社と仙厓和尚せんがいおしろう

加藤 徳生

志賀海神社は、神代より「海神の総本社」「龍の都」とたたえられ、玄界灘に臨む海上交通の要衝である博多湾の総鎮守として信仰されてきました。

志賀海神社には、かつての神仏習合時代には神宮寺としての金剛山吉祥寺があり、禅宗にもゆかりがあります。



志賀海神社

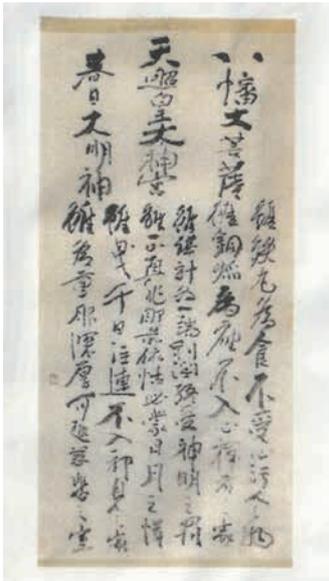
た。寺内にあった文殊菩薩を安置した文殊堂にお参りする文殊信仰も盛んで、航海神としても人々の信仰を集めました。

こうしたことから、博多にある臨濟宗聖福寺（博多区御供所町）の禅僧であった仙厓和尚は景勝地であった志賀島を好んで訪れました。

和尚は多くの格調高い書やユーモアあふれる親しみやすい絵画を後世に残しました。志賀海神社にも和尚の書などが保管されています。

金剛山吉祥寺は明治元年の神仏分離により廃寺となり、今はその姿を留めておらず跡地を残すのみとなっています。

令和6年の干支は辰年です。「龍の都」を訪ね、仙厓和尚の世界に浸ってみませんか。



仙厓和尚の書  
志賀海神社所蔵（非公開）

## 裏糟屋最大のため池

## 大蔵池 おおぞういけ

大村 浩二

現在の福岡市東区の北部と新宮町、古賀市の一部は、裏糟屋と呼ばれていました。東区

の上和白、和白東小学校の北側、新宮町との境界付近にある大蔵池

は裏糟屋地域で最大のため池です。

大蔵池は約350年前、寛文11年(1671年)に和白村の大蔵の



古い水田をつぶして築かれました。池の水は上和白村、下和白村、下府村の農業用水として約70ヘクタールの水田を潤し、人々の生活を支えました。

この時尽力したのが、黒田藩の郡奉行蒲池重弘 かまちしげひろ です。周辺の村々間の

利害を調整し、上流部の村々に依頼して池にためる水を確保し、この大

事業を完成させました。新宮町の興雲寺には、毎年のように日照り、水不足に苦しんでいた裏糟屋の人々を救った蒲池重弘の功績を讃える石碑が建てられています。

農業用水の供給という

役割を終えた今、池の周囲には公園や緑地があり、水面では野鳥が羽を休めています。

周辺の水田が水をたたえていたころの風景や、池を築いた先人たちの苦労を想像しながら、池の周囲を散策してみませんか。



大蔵池

久保記念館

奥永 茂晴

九州帝国大学の前身、京都帝国大学福岡医科大学の初代耳鼻咽喉科教授だった久保猪之吉いのきち（1874〜1939）は、日本で初めて内視鏡手術を行った医師で、福岡の文学界に大きな功績を残した歌人です。

「久保記念館」Ⅱ **左上写** 示されています。（現在、收藏品は一般公開されていません。）  
 記念館の周辺には、昭和9（1934）年に、彫刻家・朝倉文夫が制作した久保猪之吉の胸像Ⅱ

九州大学病院キャンパス（馬出三丁目）の敷地内には、久保猪之吉の偉業をたたえる

日本初の内視鏡手術で使われた器具を含む医療器具や長年の医療記録、医学標本、文芸雑誌『エニグマ』などが收藏される他、妻のより江夫人、患者であった長塚節や斎藤茂吉、与謝野晶子など

当時の文化人の作品も展示されています。  
**左中段写真Ⅱ**が建てられています。また、猪之吉がドイツ留学中に詠んだ望郷の歌『霧ふかき南独逸イツの朝の窓おぼろにうつれ故郷の山』の歌碑Ⅱ **写真Ⅱ**もあります。



俳句や短歌など多くの作品を残しています

## 不老水と武内宿禰

桂 裕行

香椎宮境内の奥を出て、住宅地を約5分ほど歩いたところに、「不老水」があります。

「古事記」「日本書紀」

で5代の天皇に仕えたとされる伝説の大臣、武内宿禰が掘った霊泉といわれ、現在も湧き続けています。

香椎宮に祭られている仲哀天皇や神功皇后



不老水

に献上され、宿禰も自らこれを飲んで300歳を超える長寿を保ったと伝えられています。

宿禰の子孫は、波多氏、

巨勢氏、蘇我氏、平群氏、紀氏、葛城氏等の有力な氏族の始祖となりました。また、宿禰の肖像は戦前の紙幣にも用いられました。

日本各地に宿禰にゆか



武内宿禰像

りのある神社が多く、香椎宮内外には武内宿禰を祭る「武内神社」や、長男・波多八代宿禰の「朽瀬神社」、三男・蘇我石河宿禰の「印鑰神社」、そして四男・平群都久宿禰の「高陪神社」などがあります。

香椎宮周辺を散策しながら悠久の時を楽しんでみてはいかがでしょうか。

香椎宮周辺を散策しながら悠久の時を楽しんでみてはいかがでしょうか。



武内神社

## 名島学校

今村 一朗

豊臣秀吉が九州を平定した天正15（1587）年の博多は、度重なる戦禍で荒れ果てていました。

筑前国主となった小早川隆景たかかげは、長く続いた戦乱で、学問がすたれ、人心も荒廃しりぞしていることを嘆なげき、下野国しもつひ

（栃木県）足利あしかがの足利学校に倣い、築城した名島に学舎を建て、武



名島城本丸跡



実が一年中青いまま落ちることがないといわれる「不断梅」

士や庶民を問わず勉学を勧めました。

名島学校は、文化庁が日本遺産に認定した足利学校に次ぐ古い学校といわれていますが、どこに建てられたのか、正確には分かっていません。

文禄4（1595）年、隆景は家督を秀秋ひであきに譲つた後、備後国（広島県）三原に戻り、領内に学舎を建て、名島学校と名付

けています。知将であり情にも厚かった隆景は、庶民の教育にも熱心に取り組みました。

名島城本丸跡には、三原市から寄贈された足利学校ゆかりの「不断梅」ふだんばいがあります。現代の学校の始まりともいえる名島学校を建てた隆景の功績をしのび、散策してみませんか。



JR香椎線西戸崎駅付近に、「開墾社」という青年道場がありました。開墾社とは、旧福岡（黒田）藩士が中心となり、大アジア主義

を唱えた政治結社「玄洋社」の前身です。

明治9（1876）年、明治政府に不満を抱く士族たちが起こした「萩の乱」に関与したとして、捕らえられ



た頭山満は、獄中で敬愛する西郷隆盛が西南の役を決起したことを知りました。さらに板垣退助の民権運動に影響を受けていきます。

翌年、西郷隆盛が鹿児島山城で自決した日に釈放された頭山満らは「青年の士気を挽回させなければ、先輩の霊を慰めることはできぬ」と、西戸崎に「開墾社」を開

きました。集まった20歳前後の青年たちは、勉学



頭山満（市博物館提供）

に励み、心身鍛錬の自給自足の生活をしながら来るべき時に備える日々を送りました。

その後、開墾社は、「向浜塾」、「向陽社」と名称を変え、明治14（1881）年に玄洋社と改称しました。玄洋社は、自由民権の普及や憲法の制定、国会の開設などに尽力しました。その後、第二次大戦後に解散しました。

昭和53（1978）年、中央区舞鶴二丁目に玄洋社記念館を開館し、現在は、この地に「玄洋社跡記念碑」が建てられています。所蔵資料は、福岡市博物館に寄贈されています。

## 須賀神社の祇園山笠

大塚 眞一

唐原うらのぼるにある須賀神社は、香椎宮が創建された724年以前から唐原地区の氏神うじがみとして祭られていたといわれています。地元では「祇園宮おんみや」の名で親しまれています。

須賀神社の最大の行事である「祇園山笠」は、令和元年に「福岡市指定無形民俗文化財」に指定されました。



香椎宮司による神事



山笠が町内を勢いよく走ります

山笠は7月1日の「注連縄下ろしめなわ」から始まり、山笠の道具類を取り出す「台おろし」、基礎部分を組み立てる「台からげ」、祭礼前日に人形などを飾り付ける「山飾り」を経て、14日の祭礼当日朝に香椎宮神官による神事が行われます。

夕方、子どもたちが掛け声とともに、触れ太鼓を鳴らして山笠が動くこ

とを住民に知らせます。山笠は、神社前の道を3往復して神社に戻り、境内で右回りに3回、前後に3回揺らされたあと、博多祝いの唄を歌って祭礼は終了します。

唐原の山笠行事は、地域住民によって全て行われます。若い世代へ伝統を受け継いでいく一体感の感じられる伝統の行事です。

筥崎宮・楼門

奥永 茂晴

筥崎宮は、石清水(京  
都府)、宇佐(大分県)  
とともに三大八幡とい  
われています。楼門も  
また、阿蘇(熊本県)、  
鹿島(茨城県)とともに  
に三大楼門といわれ、  
国の重要文化財に指定  
されています。

楼門は文禄3(15  
94)年に当時の筑前  
領主の小早川隆景に  
よって再建されました。



筥崎宮楼門



楼門の扉の太閤桐の文様

楼門の正面には「敵国  
降伏」の額が掲げられて  
います。これは、武力で  
はなく、徳の力をもって、  
相手が自ら降伏するよう  
に導くという意味である  
ことから、「伏敵門」と  
も呼ばれています。

神社には珍しい仏教的要  
素を取り入れた建築様式  
で、室町時代末期の特徴  
が見られます。三間一戸  
入母屋造りという頑丈な  
構造で、三手先組という  
柱の上部の組み木が、大  
きな屋根を支えています。  
屋根はヒノキの樹皮を用  
いた檜皮葺です。扉の太  
閤桐の文様の彫刻は、左  
甚五郎の作と伝えられて  
います。

筥崎宮の長い参道を楼  
門まで歩いて、安土桃山  
時代からの歴史の流れを  
感じてみませんか。



地下鉄箱崎駅前駅の2番出口を出るとすぐに筥崎宮参道がある

## 香椎宮境内の文学碑

田中 啓子

明治41年に福岡市で生まれた九州俳壇の重鎮、小原菁々子の句碑が香椎宮しょうぶ池のほとりにあります。

『綾杉のこぼす神威の露涼し』（綾杉を濡らす格別に澄んで清らかな夏の朝露）

平成3年、82歳の菁々子を敬愛する東区・粕屋・宗像の俳人達が「後世の俳句愛好家の手本に」とこの句碑を建立しました。

菁々子は河野静雲と



小原菁々子の句碑

高濱虚子を師として研さん

高濱虚子（たかはまきよし）を積んだ後、多くの名句を詠み、生涯かけて伝統俳句の指導と普及、振興に努めました。福祉活動にも尽力し、多くの人に慕われた、地域を代表する俳人です。

香椎宮の境内には、高濱虚子門下の阿波野青畝の句碑もあります。

『爽やかに宿禰掬みけむ不老水』（長命を保った武内宿禰がすくったであろう秋の澄みきった不老



不老水について詠んだ阿波野青畝の句碑

水）青畝が平成元年、90歳の時に詠んだ句です。

明治・大正時代の文豪、夏目漱石は明治29年に香椎宮を参拝し、次の句を詠みました。

『秋立つや千早ぶる世の杉ありて』

香椎宮の御神木の綾杉の下には新古今和歌集の歌碑があります。

境内の文学碑や史跡を巡り、文学散歩をお楽しみください。



香椎宮の御神木  
綾杉

## 多々良川の歴史散歩道

今村 一朗

多々良川は、糟屋郡宇美町と飯塚市の境にある砥石山（標高828m）を源流とし、支流の鳴洲川、猪野川、宇美川と合流し、名島で博多湾に注ぐ、長さ17・8kmの河川です。

川の名前となっている「多々良」は鋳物を造るときに使う踏鞴（大型の足踏みふいご）

が由来といわれています。神功皇后が三韓（朝鮮半島）への出兵から



多々良川と砥石山（奥）

凱旋したとき、大陸から渡って来た多くの鋳物工が多々良川周辺に移り住み、川砂の砂鉄で鋳物を造っていたという伝えがあります。国宝となっている観世音寺（太宰府市）と妙心寺（京都市）の日本最古の梵鐘は、多々良川流域で鋳造されたといわれています。

多々良川の下流域には、多々良川河畔公園と遊歩道Ⅱ左写真Ⅱが整備されています。遊歩道周辺には、神功皇后が三韓



から帰還した時、船の帆柱が化石になったという「帆柱石」をはじめ、古墳や古戦場跡（多々良浜の戦い）、名島城址、唐津街道、名島発電所跡など、古事記の時代から近代にかけて多くの史跡が残されています。

春は桜、秋は紅葉、冬は渡り鳥の観察を楽しみながら、散策してみませんか。



志賀海神社にもあった「力石」 城戸 重臣

「力石」とは、「力試しにかかえあげる石。神社の境内などに置かれる」と広辞苑に記載されています。

志賀海神社の力石は、右側面に「芥屋町三右衛門」と名前が書かれています。これは芥屋町（現博多区奈良屋町）に仮の網屋を作った、志摩郡芥屋浦（現志摩町）の漁人の中の一人、三右衛門がこの力石を持ち上げたことによるものと伝えられています。なぜ、ここにあるのかは分かりませんが、漁業を生業とした三右衛門が海上安全や豊漁祈願、またそのお礼参り、力比への記念として奉納したものと考えられます。

市内では、博多区の柳田神社にある有名力の信仰にさかのぼるといわれています。

志賀海神社の境内にも力石があります。これは芥屋町（現博多区奈良屋町）に仮の網屋を作った、志摩郡芥屋浦（現志摩町）の漁人の中の一人、三右衛門がこの力石を持ち上げたことによるものと伝えられています。なぜ、ここにあるのかは分かりませんが、漁業を生業とした三右衛門が海上安全や豊漁祈願、またそのお礼参り、力比への記念として奉納したものと考えられます。

市内では、博多区の柳田神社にある有名力の信仰にさかのぼるといわれています。

志賀海神社の境内にも力石があります。これは芥屋町（現博多区奈良屋町）に仮の網屋を作った、志摩郡芥屋浦（現志摩町）の漁人の中の一人、三右衛門がこの力石を持ち上げたことによるものと伝えられています。なぜ、ここにあるのかは分かりませんが、漁業を生業とした三右衛門が海上安全や豊漁祈願、またそのお礼参り、力比への記念として奉納したものと考えられます。



市指定有形民俗文化財 指定  
(平成17年度)



拝殿右手の境内にあります



「春時雨 いよよ動かぬ  
力石」「力石 いま月光に  
浮き上る」



## 東区歴史ガイドボランティア連絡会 歩・歩・歩(さんぽ)会

東区歴史ガイドボランティア連絡会(愛称：さんぽ会)は、東区の歴史と文化を学びながら、地域の魅力を広く伝えていくことを目的として活動しています。

さんぽ会の詳細についてはホームページをご覧ください。「東区歴史街道を行く」「東区歴史ガイドマップ」のPDFをダウンロードしていただけます。



さんぽ会ホームページ



ボランティアのおすすめスポット

東区さんぽ会



発行 福岡市東区企画振興課  
福岡市東区箱崎2丁目54-1  
2026(令和8)年2月